

日本医学会だより

JAMS News

2015年10月 No.54
日本医学会

◆臨時評議員会

平成27年6月24日(水)に日本医師会館小講堂にて臨時評議員会が開催された。主な議題は「日本医学会役員選任等の件」で、先に開催された日本医学会連合の定時総会で選任された新役員を日本医学会の役員とすること、また、副会長は従来、基礎、社会、臨床に各1名ずつであったが、近年、臨床部会の数が増加し、今後も継続して増加が予想されるため、臨床部会の副会長を、臨床内科系、臨床外科系の2つに分け、4名の副会長とすることが承認された。

◆日本医学会公開フォーラム

第19回日本医学会公開フォーラムは「胃がん—ここまで進んだ診断と治療—」をテーマに、12月26日(土)13:00~16:00、日本医師会館大講堂において開催する。組織委員長は、今野弘之(浜松医科大学副学長・病院長)。参加申込みは郵便はがき、FAX、本会HP(<http://jams.med.or.jp/>)にて受付中。参加費無料。プログラムは日本医学会HPをご参照いただきたい。

◆日本医学会シンポジウム

第148回シンポジウムは「新しいがん免疫療法」をテーマに、12月24日(木)13:00~17:00、日本医師会館大講堂において開催する。組織委員は、間野博行、岩井佳子、上田龍三の各氏。参加申込みは郵便はがき、FAX、本会HP(<http://jams.med.or.jp/>)にて受付中。参加費無料。詳細は日本医学会HPをご参照いただきたい。

◆医学賞・医学研究奨励賞の決定

選考委員会を9月2日(水)に開催し、平成27年度の日本医師会医学賞・医学研究奨励賞の授賞が決定した。

本選考は、日本医師会から日本医学会に委任されており、今年度の推薦数：医学賞21、奨励賞28を審査した。

選考の結果、11月1日(日)の日本医師会設立記念医学大会において、今年度の医学賞は4名、奨励賞は15名に授与される。

選考の結果は下記のとおり。

〈日本医師会医学賞〉

- ・慢性炎症・癌化に関わる新しいユビキチン修飾系の発見/岩井一宏(京大・細胞機能制御学)
- ・生活習慣病のリスク要因解明と予防対策の評価に関する公衆衛生学的研究/磯博康(阪大・公衆衛生学)
- ・高血圧の発症の分子メカニズム/藤田敏郎(東大先端科学技術研究センター)
- ・がん外科手術手技に関する臨床研究法の確立とそれをういた胃がんリンパ節郭清の標準化/笹子三津留(兵庫医大・外科学)

〈日本医師会医学研究奨励賞〉

- ・分子イメージングによるがんのコンパニオン診断とイメージングに基づいた光線治療法の開発/光永真人(慈恵医大・内科学)
- ・褐色・白色脂肪細胞における転写・エピゲノム制御と肥満症における意義/脇裕典(東大・脂肪細胞機能制御学)

- ・ ストーマ患者に対する新たな同種複合組織移植研究/荒木 淳 (東大・形成外科・美容外科学)
- ・ 子宮内膜由来の着床障害による不妊症の関連遺伝子の解析/黒田恵司 (順天堂大・産科婦人科学)
- ・ 医師の健康支援に関する産業保健的介入のあり方の検討/和田耕治 (国立国際医療研究センター)
- ・ 心不全特異的なBNP転写誘導メカニズムの解明による新たな経口心不全治療薬開発の試み/塚本 蔵 (阪大・医化学)
- ・ 肺癌化学療法に伴う免疫耐性機構の動的変化を克服する化学免疫療法の基盤開発とその制御/大植祥弘 (川崎医大・呼吸器内科学)
- ・ 消化器癌における常在微生物群ゲノムの解析と分子異常・免疫応答・環境因子との関連/能正勝彦 (札幌医大・消化器・免疫・リウマチ内科学)
- ・ 炎症性腸疾患における腸内細菌叢パターン解析による新たな診断分類, 治療選択手法の確立/高山哲朗 (東海大・内科学)
- ・ 臓器間神経ネットワークによる体重調節機構の解明に基づく新規肥満治療薬の開発/山田哲也 (東北大・糖尿病代謝内科学)
- ・ CTCチップを用いた循環腫瘍細胞捕捉と低侵襲的な新規腫瘍確定診断法の確立/横堀武彦/(群馬大・病態腫瘍薬理学)
- ・ 食道癌における“がん代謝”に関わるepigenomic biomarkerの網羅的解析/馬場祥史 (熊本大・消化器外科学)
- ・ 聴覚機能の成立に関わるアクチン制御機構の解明/坂口博史/(京府医大・耳鼻咽喉科・頭頸部外科学)
- ・ メタボリックシンドロームにおける尿路結石促進機序の解明と分子標的治療への応用/岡田淳志 (名市大・腎・泌尿器科学)
- ・ 次世代型偏光感受型光干渉断層計による術後瘢痕化評価/福田慎一 (筑波大・眼科学)

◆「HPV ワクチン接種後に生じた症状に対する診療の手引き」作成について

HPV ワクチン接種後に生じた様々な症状により、適切な医療を求めている患者及びその保護者に対する支援体制充実のため、日本医師会とともに作成したものである。現場で対応にあたる地域の医療機関、都道府県ごとに選定した協力医療機関の医師等を対象にしている。平成27年8月19日(水)に日本医師会と合同記者会見を行った。手引きは日本医学会HPからダウンロードできる。

<http://jams.med.or.jp/news/041.pdf>

また、平成26年12月10日(水)には日本医師会と「子宮頸がんワクチンについて考える」をテーマに合同シンポジウムを開催しており、日本医学会HP「Onlineライブラリー」から動画配信しているので併せてご参照いただきたい。
<http://jams.med.or.jp/library/symposium.html>

◆研究倫理教育研修会

日本医学会連合研究倫理委員会、日本医学雑誌編集者組織委員会、日本医学会利益相反委員会主催の研究倫理教育研修会を、「医学研究倫理を考える」をテーマに、平成27年5月15日(金)、河上 裕、北村 聖、曾根三郎の各座長の下、日本医師会館大講堂にて開催した。

当日は、「医学研究と倫理」(河上 裕慶應義塾大学医学研究科委員長)、「医学研究成果公表における著者資格と研究不正およびその防止」(北村 聖東京大学大学院医学系研究科附属医学教育国際研究センター教授)、「医学系研究に係る利益相反マネジメントの考え方とその実際」(曾根三郎徳島大学名誉教授/徳島市病院事業管理者)、「『人を対象とする医学系研究に関する倫理指針』の概要」(福井次矢聖路加国際大学理事長/聖路加国際病院院長)、「あらためて研究倫理とは何か～医の倫理との異同を考える」(棚島次郎東京財団研究員)の講演がそれぞれ行われ、総合討論の後、終了した。参加は97分科会。